

2 現在の取組と成果

「滋賀県内水面漁業振興計画」(P19)の内容にそって、令和6年度に実施している事業と今までの成果についてご紹介します。

(1) 水産資源の増殖

(1)-1 琵琶湖漁業

私たちが貴重な琵琶湖の水産資源を将来も利用していくために、在来種を増やすためのさまざまな取組に加えて、漁業者自身が資源を守る意識を持つことが重要です。

迅速な資源評価に基づく資源管理の推進

〈沿岸漁業における自主的資源管理体制高度化事業費〉 事業費：500千円

※事業実施主体 滋賀県資源管理協議会

～事業の背景～

琵琶湖漁業は、環境の改変や外来魚の台頭などの影響により資源が減少し、漁獲量の下落が続いています。減少した資源を回復させるためには、放流や漁場環境の改善に加え、漁業で獲り過ぎないことも重要です。漁獲対象となる魚や貝の減少は、漁業者の経営を圧迫するだけでなく、水産物を利用・消費する食文化の消失にもつながります。

そこで、琵琶湖の水産資源の量や状態を科学的に把握し、その結果を基に適切な量を漁獲する資源管理型漁業を推進しています。

～事業の内容～

県では、主要な漁獲対象種である、ホンモロコ、ニゴロブナ、セタシジミ、アユ、ビワマスの5魚種について科学的な資源評価に基づき、それぞれの魚種における目標とする資源水準を定めた滋賀県資源管理方針を定めています。漁業者はその目標を達成するために自主的な資源管理の目標を定めた資源管理協定を締結し、具体的な資源管理の取組を行っています。資源管理協議会では、これら協定が適切に履行されているかの確認や、取組効果の検証を行っています。

～事業の実績～

資源管理方針の策定や資源管理協定の内容を検討するため、ホンモロコ、ニゴロブナ、セタシジミ、アユ、ビワマスの関係漁業者と検討会を重ね、資源を持続的に有効に利用するにはどういった取組が必要かを検討しました。検討にあたっては、産卵や成長といった生態的特徴や科学的データを踏まえ、小型のものを獲らない取決めや操業自粛期間を設定するなどの取決めを行っています。



周知用ポスター

〈漁獲報告システム保守運用〉 事業費:1,870 千円(委託先:民間事業者)

〈漁獲情報集計体制整備事業〉 事業費:2,100 千円

(委託先:滋賀県漁業協同組合連合会)

～事業の背景～

水産資源の持続的利用に向けた適切な管理を行うため、令和2年12月に施行された改正漁業法により、知事許可漁業や漁業権漁業を営む漁業者は、操業毎の漁獲量等について、県知事への報告が義務づけられました。新たな資源管理の推進のため、漁業者の負担の軽減を図りつつ、漁獲報告の履行と資源評価に必要なデータ収集および国へ漁獲報告を一元的に可能とする体制が求められています。

～事業の内容～

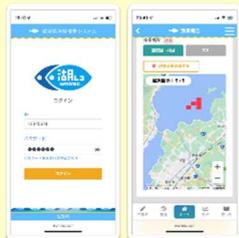
漁業者がスマホなどを使って、漁獲量等の情報を迅速に簡単に報告できるよう、滋賀県漁獲報告ウェブアプリ「湖(うみ)レコ」を開発し、運用しています。このアプリのさらなる普及を図り、漁獲量等の迅速把握、きめ細やかな資源評価を行うなど、新しい資源管理の推進を図ります。

漁業者のための
滋賀県漁獲報告WEBアプリ「湖レコ」



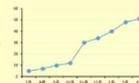
いつ どこで どんな魚を
どれだけ どんな方法で

簡単、便利にスマホで報告
令和4年4月から運用中!

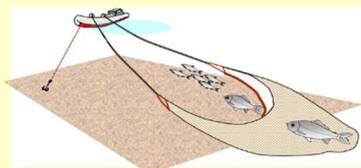


漁業者 迅速な報告

県庁 迅速な資源管理へ



- いつ
- どこで
- どんな漁法で
- どんな魚を
- どれだけ
- 漁獲したか



刺網

把数 30 把

張り方 地ばえ

魚種 必須

ニゴロブナ (メス・イオ)	ニゴロブナ (オス・カマ)
選択内容: ニゴロブナ (メス・イオ)	選択内容: ニゴロブナ (オス・カマ)
40 kg	27 kg

採集場所 必須

琵琶湖・内湖 河川

選択箇所: 5/5